

「天気」偶感

根本 順 吉

私は会員番号27の、学会の主流からはすでに疎外されてしまった老会員である。本年2月号の「天気」編集後記に触発され一筆する気持ちになった。

編集後記にしてはやや長い半ページの文章の末尾で、執筆者のMS氏は次のように述べた。“生意気なことを述べて恐縮ではあるが、……”恐縮なら述べなければよいのに、と思うのだが、それは若気のやまれぬ気持ちからであろう。

しかし、ここで述べられていることは、編集後記としてはふさわしくない内容だと私は思う。それは一般会員と同様に「会員の広場」欄で筆者名を明記した上で、堂々と論じなければならぬ問題であると思うからである。

そのような内容の文章を匿名で編集後記とするのは特権の行使であり、だから筆者は何か生意気のように感ぜられたのであろう。若い働き手の生意気の横行することは、学会活動の一つの原動力ともなることながら、他面それが気になる老人も会員にはいるのである。

私は毎月贈呈される総合雑誌「Voice」の巻末に毎月連載されている谷沢永一氏（関西大学教授）の「巻末御免」を真っ先に読むことにしている。一刀両断の筆の冴えはいかにも気持ちがよいが、MS氏の編集後記は苦衷を何かブツブツ訴えているようで、切れ味がよくない。私なりにその要点をまとめてみると、次の三つになる。

(1) 温暖化問題について、いろいろ問われたとき“公の機関の公表したことまでは話が出来るとして、それから一步踏み込んだこととなると、途端に答に詰まってしまうことが多いのではあるまいか。”

(2) “真に深刻な問題は気象の専門化の答え方が様でかつ矛盾し、社会的に混乱を生むことになった場合であろう。”

(3) 「天気」は“少なくともこの混乱の発生を起こさぬために貢献する使命があるのではないだろうか。”

さて(1)だが、これは公認されたことの紹介ならできるが、ということなのだろうか、老生の如き者には、ほ

とんどが非臨床家によって公認されている、孫引き的な公認知識を自信をもって紹介することはできない。

その問題についての非専門家が、一步踏み込んだ時に答に詰まるのは当然のことで仕方がないことだが、これは他面今までの学問の仕方が世間一般の問いに対して答える形—これを臨床知という—として発展せず、もっぱら基礎的知識でおさえ込む形で発達してきたから、具体的な問いに対しては全くお手上げという面もあるのだ。

(2)の専門家の問いに様々な矛盾や混乱があることは大いなる飛躍の前兆で、私は大へん良いことだと思う。おおいに論をたたかわせたらよいのだ。それと対外的責任とは分けて考えねばならぬし、その責任を果たすためには学会として、もっと外のことをやらねばならない。対外的責任があるからといって、学会としての意見を統一してしまうことは自由な研究を阻害する恐れがある。

(3)に関連することだが、2月号をみても、天気は温暖化や環境問題について様々な努力をしている。大へん有難いことだと思うのが、その内容に立ち入ってみると、批判の余地が全くないわけでない。気付いた2, 3についてのべてみよう。

2月号の巻頭は周東健三氏の“気候温暖化に伴う海面水位の上昇について”という解説である。15ページにも及ぶ力作で、様々な事実や動向をのべた部分は教えられる所の多いものだが、予測を含む様々な理論的問題の解説になると、非専門家には決してわかり易いとはいえない。試みに2.2の海水の熱膨張の寄与のところをよんでみよう。

なぜ真っ先にHansen等の一次元モデル(1981)が出てくるのか、これにつづいてIPCCの報告書のHoffert等の考え方がかなりくわしく説明されている。ところでIPCCの専門家として日本から出席した東晃氏の報告によると、IPCCではもっぱらRaper Wigleyの研究が中心としてまとめられており、そこに引用されている論文はHoffert等の1985年のものであり、1980年のものではない。周東氏は1980年の論文が出発点にな

るものだから、85年をとらず80年をとったのであろうか。

海水位問題についての非専門家は、これらの問題について原著に遡ってまで勉強する余裕がないから、解説者にはどうかその点までも含めての紹介をおねがいしたいのである。

海水位問題についての総合的な解説は少なくない。周東氏のこの力作を S, 東氏の解説を H, ボリンの本(1986年)にある G. deQ. Robin のものを Q, 1983年の“Changing Climate”の中にある Roger R. Revelle のものを R, IPCC のケンブリッジ報告にあるものを C, とする。これをわかり易さの順にならべてみると、私の主観では

$$S > H > R > Q > C$$

となっていて、Sを理解するのがもっとも容易でない。だから言葉で多少不自由しても、わかるものとしてCやQを読んでしまうのである。なぜ平易に日本語で解説できないのか改めて論ずべきことであろう。

IPCC の昨年8月スウェーデンのストックホルムで開かれた会議については気象庁の黒沢真喜人氏が報告している。本文半ページで編集後記とほとんど同じ長さである。出席者から、さらなるくわしい報告がききたいところだが、黒沢氏のこの報告には IPCC の科学的知見の部分の仮訳がおよそ1ページ半つけられている。ゴジで示された最初の二つの見出しは次の通りである。

我々には以下のことを確信する。

我々は確信をもって以下のように考える。

念のためケンブリッジから出ている報告から原文を示すと次の通りである。

We are certain of the following:

We calculate with confidence that:

このまとめは Policy-Maker のためのものであり、1～3部会でまとめたその要約だけが最近、邦文に訳され単行本としても刊行されている。

政策の決定にはその基礎として断固とした確信のあることは大切なことかもしれないが、科学の成果がこのような現在の確信だけで語られることに、私は納得がいかない。

ケンブリッジから刊行された IPCC の原文を読みると、様々なデータを含めて、要約から落ちてしまった様々な問題が取り上げられており、それによって地球環境問題の現状を見渡すことができる。気象を専攻するものなら policymaker のための要約で満足できるわけがない。黒沢氏が自分の報告を半ページにひかえてま

で、学会誌に IPCC のこの要約だけをのせた真意を私は理解することができない。

2月号だけに限定しても、私がのべたいことはまだ山ほどあるが、具体的に取り上げると長くなるので、今回はこの程度にする。通読して問題は遠くにあるのではなく、編集者の足元にあることを私は痛感した。若い編集者達はおそらくこの困難を元氣よく乗り越えてゆくであろう。

最後に編集経験のある一老人からの苦言を一つ。どうかもう少し誤植の少ない雑誌を作ってもらいたい。それは学会の質の高さを示す一つの指標となることでもあるのだ。

参 考 文 献

- Hansen, J. & others, 1981: Climate impact of increasing atmospheric carbon dioxide, *Science*, 213, 957-966.
- 東 晃, 1991: 地球温暖化と海面上昇, 極地, 52, Vol. 26, 2, 58-65.
- Hoffert, M.I. & others, 1980: The role of deep sea storage in the secular response to climatic forcing, *JGR*, 85, 6667-6679.
- Hoffert, M.I. & others, 1985: Model projections of the time-dependent response to increasing carbon dioxide, In: *Projecting the Climatic Effects of Increasing Carbon Dioxide*, US Dept. of Energy, 149-190.
- 霞ヶ関地球温暖化問題研究会, 1991: IPCC 地球温暖化レポート, 中央法規出版 KK.
- 黒沢真喜人, 1991: WMO/UNEP・IPCC 第4回会合から, *天気* 38, 107-108.
- Revelle, R.R. 1983: Probable Future Changes in Sea Level Resulting from Increased Atmospheric Carbon Dioxide, In *Changing Climate*, National Res. Council, 433-448.
- Robin, G. deQ. 1986: Changing the Sea Level, In Ed. by Bolin & others, 1986: *The greenhouse Effect Climatic change, and Ecosystem*, 323-359.
- 周東健三, 1991: 気候温暖化に伴う海面水位の上昇について, *天気*, 38, 77-91.
- Warrick, R. & others, 1990: Le Level Rise, In ed. by Houghton, J.H. & others: *Climate change, The IPCC Scientific Assessment*, WMO/UNEP Cambridge Press. 250-281.
- Wigley, T.M.L. & S.C.B. Raper, 1987: Thermal expansion of sea water associated with global warming, *Nature*, 330, 12 Nov. 1987, 127-131.
- “Voice” は PHP 研究所発行総合月刊誌。